

その名大口

『武士道』と『茶の本』

大掃除ごころうさま。年の瀬の大掃除は、実りと幸せをもたらす年神様を迎えるためです。日本の神様はきれいなところに宿ります。門松やしめ縄・鏡餅はすべて年神様を迎える準備です。

10月の朝礼で内村鑑三の話をしました。今日は、『武士道』を著した新渡戸稲造、そして『茶の本』を著した岡倉天心について話したいと思います。

内村鑑三の『代表的日本人』とともに『武士道』・『茶の本』は、世界に日本を発信した代表的著書です。日清・日露戦争の同時期にいずれも英文で発表されました。日本が注目を浴びながらも、欧米からは野蛮国とみなされていた日本への誤解を解き、日本人の誇りや日本文化のすばらしさを世界に訴えたものです。



『武士道』を著すきっかけは、「日本の学校では宗教教育がないのに道徳教育はどうなっているのか」というベルギーの法学者の問いに応えようとしたことと、「切腹」に象徴される欧米社会の「日本は好戦的で野蛮な未開の国」というイメージの払拭です。切腹は礼法上の一つの制度で、武士が罪を償い、過ちを詫び、恥を免（まぬが）れ、友を救い、自己の誠実を証明する行為であり、日本は礼儀を備えた文明国であると主張しました。

上2枚は、進路職員研修(12/15)の様子。教育センターでの進学指導重点支援校アクティブラーニング研修会(11/18)に参加した5人の先生方の報告とベネッセ進学支援アドバイザーによる「アクティブラーニングや協働的な学習の必要性和大学入試との関係」の講話がありました。



左は、終業式前の表彰式の様子。県児童生徒作文コンクール…入選益園彩寧さん(3年)、野尻菜々恵さん(2年)、寺師千里さん(1年)。かわなべ青の俳句大会…特選中西ほのかさん(1年)、入選酒匂千聖さん(1年)、二渡卓磨君(2年)。県高校美術展…入選野尻菜々恵さん(2年)。県高校書道半紙展…優秀賞山内葵さん(1年)。県高校書道展…秀作賞手塚来花さん(1年)、白石大十君(1年)

武士道の特徴は「名を惜しむ・死を恐れぬ根性」です。「名を惜しむ」とは、「誇り」を大切にすることです。名誉を重んずるということです。「死を恐れぬ根性」とは、外界からのさまざまな重圧にしっかり耐え、それを跳ね返せる強靱な精神力です。武士はいざという時は刀を抜いて戦わなければなりません。「いかに立派に死ぬか」ということが一つの目標で、立派に死ぬために「死にいたるまでを充実させて生きること」なのです。それ故、日頃から鍛錬し、日々を悔いなく生きようとし、忍耐や勇気、誠実、慈愛、礼節が求められたのです。

新渡戸稲造は国連の事務次長を努めます。やがて日本政府は国連を脱退していく訳ですから、非常に苦しい立場に立たされます。幼少期は「冬の寒い日に、日の出前に起こされ、朝食もとらず、はだして師匠のところへ通って、素読(四書の大学・中庸・論語・孟子)の稽古」を受けさせられます。武士の世が終わり、世の中に出ていくための道として学問を選び、8歳の時に親元を離れ上京、15歳で札幌農学校に入学します。遠く故郷を離れた稲造を母親は凛々しい手紙で励まします。「…偉い人になっ

て下されば白髪がいかに増えようとも厭いません。十年など何ものでもありません。家を慕うような弱い心ではなりません。お前は大事な仕事があるのを、ゆめ忘れてはなりません。そのために強い心でいなくてはなりません。年老いたこんな弱い母でも、別れに耐えられますから、もちろんお前も耐えられます。明るい心で耐えねばなりません。……もしお前が不名誉なことでもすれば、母は不面目です。立派な人におなりなさい……。「明るい心で耐えねばなりません」といい、「立派な人におなりなさい」と結んでいます。子どもの成長を望まない親はいません。

岡倉天心は仏像を薪がわりに焚いた「仏風呂」に象徴される廃仏毀釈運動が吹き荒れるなか、「連綿と続いてきた日本人の精神性を見失って良いのか」と問い日本人の精神や芸術を守る運動を展開します。その時の彼の原点は、17歳の時に訪れた奈良の美しさです。彼の著した『茶の本』は、茶道の指南書ではありません。近代欧米の物質主義的文化と対比して、東洋の伝統精神文化の奥義を解きつくそうという文明論です。「平和的」で「内省的」文化である「茶」にこそ日本の神髄があると主張します。彼がいなければ、日本の優れた伝統や歴史を見失い、文明開化という大きなグローバルの波に飲み込まれていたかも知れません。内村鑑三、新渡戸稲造、岡倉天心の生き方・思想から何を学べるのか。私がいなさんに届けたいメッセージはどこにあるのか、それぞれに考えて欲しいと思います。

「目標がその日その日を支配する」 3学年 別府裕将先生

今日は私が高校の時に会った好きな言葉について、紹介したいと思います。皆さんは、“目標がその日その日を支配する”という言葉を知っていますか？ この言葉は高校野球の名門校である横浜高校野球部の渡辺前監督の言葉です。まず全文は紹介できませんが、一部だけ紹介したいと思います。

三笠山にのぼる第一歩 富士山にのぼる第一歩 同じ一歩でも 覚悟がちがう

どこまで行くつもりか どこまでのぼるつもりか 目標がその日その日を支配する

(※三笠山 … 標高 342m , 富士山 … 標高 3776m)

“目標がその日その日を支配する”この言葉の意味は、何か本気で達成したい目標や夢があるならば、それをどうしたら達成できるかを常に考え、今自分のやるべきことを続けなければいけないということです。『覚悟』の差で本当に成し遂げる人とそうでない人に分かれてしまいます。

右は、アクティブラーニングを意識した12月の校内研究授業の様子。上から三原由麻先生（国語）、龍本創矢先生（保健）、中野翔子先生（英語）。

今、皆さんは、目標を達成するために強い覚悟を持って生活ができていますか？ 三年生の皆さんの中には、進路が決定したものもいれば、今から入試を控えてがんばる人もいます。進路が決定したものは、「就きたい職に就けた」「行きたい学校に合格した」だけで終わりではないですよ？ 行きたい学校があったということは、取りたい資格や学びたいこと、目指している職業などが夢や目標としてあると思います。何か本気で達成したい目標や夢があるならば、それをどうしたら達成できるかを常に考えて、今、自分のやるべきことを続けなければいけません。

今からでもできること、今からしておくべきこと、今しかできないことをよく考えながら生活して欲しいなと思います。

また今から入試を控える生徒も今一生懸命にがんばっていると思います。約一ヶ月後にはセンター試験が来ます。この残り一ヶ月をどう過ごすかが非常に大事になってきます。今の勉強に取り組む姿勢をもう一度見つめ直して、さらに強い覚悟を持ち、試験に挑んでほしいと思います。社会に出てからも、三年生みんなが自分なりの高い目標を持って 目標達成のために困難から逃げずに立ち向かう人になってほしいと思います。

